

# 平成23年度事業計画・収支予算

歴史街道推進協議会

# 平成23年度事業計画・収支予算

＜平成23年4月1日～平成24年3月31日＞

## ＜活動の方向＞

- (1) 協議会および参画団体のもつ資源(人材・資源・資金)の活用を図る。
- (2) 第六期計画に沿って「何をしたいか？」を明確にしたうえで、「何が出来るか？」を確認し、着実に計画を推進する。
- (3) 事業(プロジェクト)の推進にあたっては、行政・地域住民・団体・事業者等とのパートナーシップを前提とし、それぞれの役割を明確にして取り組む。
- (4) 協議会発足から20年の活動の成果を踏まえ、これまでのノウハウやストックを最大限に活用するとともに、20周年を広く周知し「歴史街道」の認知度向上を図る。
- (5) 第六期計画(平成21年度～23年度)の実績等をふまえ、協議会参画団体の総意をまとめて平成24年度からの3カ年計画「第七期計画」の策定をおこなう。

## I. 地域づくり事業

### (活動の方向)

#### ・メインルート

メインルートでは『「歴史街道」づくりの提言』を意識し、3つの柱をかかげて事業を展開している。

- (1) 伊勢～飛鳥～奈良～京都～大阪～神戸プロジェクト
- (2) 歴史街道の魅力付けに関する取り組み
- (3) 歴史街道ムーブメントの始動

第六期計画の3年目となる本年度は、さらなるメインルートの事業実体化へのステップとして、街道を軸にした広域連携事業をそれぞれの地域事情に応じた形で推進する。

#### ・3つのネットワーク

これまでの活動をさらに定着・活性化させ、以下の基本方針に沿って事業展開を図る。

- (1) 「世界遺産」連携など、府県境を跨いだ歴史資源を積極的に活用する
- (2) ツアー造成、案内所等のネットワーク、語り部組織の連携などこれまで培ってきた事業ノウハウを活用する
- (3) 各「ネットワーク」固有の課題解消に取り組む

### (事業項目)

#### 1. メインルートにおける事業の推進

メインルートのDESTINATION化を図るため、各団体と協力して、魅力発見および魅力アップのための仕組みづくりを企画・実行、推進する。

##### (1) 伊勢～飛鳥～奈良～京都～大阪～神戸プロジェクト

多くの人に訪れていただく仕組みづくりを、地域事情に応じた形で実施し地域の活性化と魅力を発信していく。

###### ①伊勢～飛鳥

風景街道「伊勢街道」事業との連携。

近鉄が実施する「お伊勢参りハイキング」との連携による地域の魅力発信の総合的サポート。

###### ②飛鳥～奈良～京都

関連自治体との連携による「歴史の連続性・物語性」を活かした魅力づくりの取り組みを継続実施。

- ・地域連携会議、ワーキングの開催。
- ・共通テーマによるリレー現地講座の実施。

- ・地域の博物館、資料館とのネットワークづくりと基礎調査の実施。
- ・歴史街道連続セミナーの企画・運営。

③京都～大阪～神戸

「西国街道」「京街道」を核とした事業を継続し、地域の魅力発見とデスティネーション化を図る。

- ・「西国街道」における連携事業
  - －「水」をテーマとした連携イベントの企画実施。
- ・「京街道」における事業
  - －平成22年度の事業実績を踏まえ、京街道を中心とした周辺地域の歴史散策を企画実施。

④5私鉄連携事業（伊勢～飛鳥～奈良～京都～大阪～神戸）

鉄道会社、地域・自治体と当協議会の三者で協力し、歴史街道ルート上の沿線価値の向上、地域の活性化およびデスティネーション化を図る。

- ・鉄道主催の歴史街道ハイキングおよび関係団体、自治体のイベント情報を併せて掲載する広報リーフレットを春と秋に各10万部作成・配布。随時、ホームページ上で情報を更新。

(2) 語り部プロジェクトの推進

「日本の歴史・文化の流れをたどる旅」をコンセプトに、ボランティアガイド団体との協力関係を継続し、デスティネーションへの仕組みづくりをおこなう。

- ・生活文化史など、新たなテーマでのモニターツアーの実施。
- ・歴史街道の推奨ルートとしてのPRおよびツアーづくりへの展開をめざす。

(3) 日本風景街道「伊勢街道」、「まほろば」の推進

奈良県および関係団体と協議・検討をおこないながら、記紀万葉プロジェクトとの提携などを視野に入れ、事業をより発展させた形で継続する。

- ・座学&現地ウォーク、講演会、シンポジウムの開催。
- ・周遊散策マップ作成の検討。
- ・街道整備、清掃活動、写真展示等による歴史的景観の保全活動推進。

(4) 歴史街道ツアーの造成・実施

食、カルチャー、祭り、伝統行事等、生活文化の歴史に触れる要素を加味したツアー造成を目指す。

(5) 寺社との連携

歴史街道ツアーを通じた寺社との関係を維持し、事業推進に活用していく。

広報費 4,020千円 (H22:2,685)

## 2. 3つのネットワークにおける事業の推進

3つのネットワーク「戦国～江戸時代のまち」「古代史のまち」「紀伊半島」をベースに、地域間連携の強化をテーマに、「紀伊半島」「南大阪、飛鳥、法隆寺、奈良、京都、姫路城（世界遺産もしくはその暫定リスト搭載地の連携）」「北近畿・琵琶湖」（福井県、滋賀県、京都府丹後地域、兵庫県丹波但馬地域）」の3エリアでの広域連携を深めながら、各種事業を推進する。

### (1) 3つのネットワーク全体で推進する事業

- ・近畿全域における案内所等のネットワークによる、約100箇所での広域パンフレットの配布など相互情報発信が可能な体制づくり
- ・歴史街道モデル事業の推進
- ・ツアー事業の推進

### (2) 3つのエリアごとに推進する事業

- ・府県域を越えて歴史文化資源を活用した地域連携や観光振興を推進していくことを目的に、地域間における交流会議の運営

#### ①「北近畿・琵琶湖」エリアでの事業推進

- ・福井やまぎわ天下一街道計画等への支援
- ・広域マップの相互掲出の推進
- ・彦根城の世界文化遺産登録推進
- ・日本風景街道（琵琶湖さざなみ街道・中山道）の推進  
－関連団体との連携によるPRおよびイベントの実施  
－ホームページ等を活用した情報発信 など

#### ②「南大阪・飛鳥・法隆寺・奈良・京都・姫路城」エリアでの事業推進

- ・広域地方計画先導事業のフォローアップ
- ・百舌鳥・古市古墳群および飛鳥・藤原京の世界文化遺産登録推進

#### ③「紀伊半島」エリアでの事業推進

- ・「吉野・熊野・高野の国」事業等への協力等、広域連携事業の推進

### (3) 日本の世界文化遺産地域連携の推進

直接対象エリア：姫路市、斑鳩町、京都市、奈良市、紀伊半島

広報費 1,440 千円

---

### 3. 市町村共同事業の実施

- (1) 歴史文化資源、施設等におけるスタンプラリーの継続
- (2) QRコードを活用した携帯電話による情報提供の継続
- (3) ホームページにおける情報提供の継続・充実
- (4) 歴史街道iセンターの充実
- (5) 各種制作物の維持、制作、改訂
  - ①歴史街道のぼり
  - ②共同リーフレット
  - ③スタンプ
  - ④既存案内表示等における「歴史街道シンボルマーク」ステッカー
- (6) 鉄道、旅行、マスコミ関係者との情報交換会の開催
- (7) 駅、イベント会場などにおける展示PRの実施
- (8) その他

広報費 3,680 (H22 : △300)

### 4. 各種の受託研究・受託事業などの実施

広報費 8,000 (H22 : 1,420)

## II. 新規事業

### (活動の方向)

日本の歴史と文化の体感を推進し、世界で活躍できる人材育成に「歴史街道」を役立てることは、「歴史街道」計画の重要な使命であり、活動の原点である。

歴史街道ブランドの強化、歴史街道ファン層の拡大を目標に新規事業を企画・開発・実施する。

### (事業項目)

#### 1. 「研修プログラム」(日本文化体感プログラム) 開発

- (1) 「日本文化体感プログラム」を歴史街道推進協議会設立20周年記念事業と位置づけ主要研修機関における標準プログラム化を推進する。
- (2) 海外受入研修の継続・拡充に向け研修機関との連携を拡大する。  
JICA大阪・PREXの連携枠の維持・拡大。他の研修機関との連携の検討。  
ー外務省公示「ロシア日本センター事業 OJT研修」文化視察をエクセルインターナショナルより受託実施(7月)
- (3) 国内研修の開拓  
国内企業・団体(特に会員企業)の新入社員研修、幹部職登用研修、営業職・技術職の職能研修、応募型セミナー、販売コンテスト等のインセンティブ研修。  
ー近畿日本鉄道 2011年度総合職新入社員研修で実施予定(8月)
- (4) セミナー、学会、講演会等、講義コンテンツを活用したプレゼンス向上活動
- (5) 研修プログラムのPR  
「日本文化体感プログラム」パンフレットの活用  
ホームページにおける「日本文化体感プログラム」の紹介
- (6) 定常化に向けての運営体制の整備

#### 2. 教育プログラムの開発

- (1) 教育プログラム体系の構築  
時代ゾーン(伊勢・飛鳥・奈良・京都・大阪・神戸)とターゲット(「小学生+親」「中高生」「大学生」)のマトリックスを描きテーマ素材の発掘・展開を推進
- (2) 独自企画の検討・実施  
「古代建築の謎 ～法隆寺にみる宮大工の技と心～(仮)」(大工道具の歴史、宮大工の技、大工道具体験と木工ほか)(8月)
- (3) 大学連携企画の推進  
奈良教育大学「ならやまオープンセミナー」奈良教育大学公開講座  
京都文教大学 地域連携学生プロジェクト

広報費 1,000 (H22:500)

### Ⅲ. 広報PR事業

#### (活動の方向)

- ・協議会発足20周年の節目にあたり、記念誌を発行し、広報ツールとして活用するなど、積極的に協議会活動のアピールをおこなう。
- ・歴史街道計画の認知度向上、関係エリアの魅力発信とあわせ、各事業を「核」に、事業の実施状況や成果の報告などを通して、関係各所へのPRをおこなう。
- ・事業実施の舞台となる自治体および鉄道会社、マスコミとの連携を深め、広報力のアップにつなげていく。

#### (事業項目)

##### 1. 広報PRツールの維持充実

協議会の概要・理念および各地の楽しみ方を伝えるために、ガイドブック、DVD、歴史街道二十一景絵はがき等のツールを積極的に活用し、新たな応援団づくりに努める。また、ホームページおよびメールマガジンの内容充実と発信力の強化に注力する。

- (1) 公認ガイド「歴史街道に行く」の活用
- (2) 「四カ国語DVD」の活用
- (3) 物販ツールの作成・購入
- (4) ホームページの運営・改定
- (5) メールマガジンの発行
- (6) 歴史街道TOPICSの発行

---

広報費 800 (H22 : △55)

##### 2. 主に関西圏内を対象とする広報事業の展開

協議会発足20周年を記念して、シンポジウム等を実施するとともに、さまざまな媒体へ20周年関連記事の掲載を働きかける。また、5私鉄連携事業と協調し、イベント会場における歴史街道計画の活動紹介や、会員団体と連携した歴史街道の積極的なPRについてもより充実していく。

- (1) マスメディアへの取材協力
- (2) プレスリリース
- (3) ターミナル駅等におけるテレビ映像の放映
- (4) 展示活動
- (5) 講演会、シンポジウム等、関西圏における広報活動
- (6) 関西情報・産業活性化センターとの連携によるインターネット事業継続

---

広報費 2,170 (H22 : 420)



## IV. 歴史街道倶楽部

### (活動の方向)

- ・財務体質および広報活動強化のための重点事業として位置づけ、会員サービスの充実と会員拡大を積極的に展開する。
- ・会員企業・団体によびかけ、歴史街道倶楽部が実施する講演会やイベントへの参加を社員・職員の教養と健康の増進に役立ててもらおうなど、会員加入による福利厚生としての活用を推進する。
- ・歴史街道倶楽部会員を対象としたイベント、会員獲得のためのR Pやキャンペーンを実施する。

### (事業項目)

#### 1. 「歴史のまちウォーク」などイベントの実施

ウォーク、バスツアー、歴史講演会に加え、首都圏においてあらたに「歴史街道セミナー」を実施する。

#### 2. 会員誌「歴史の旅人」の発行

春号、夏号、秋号、冬号を発行する。

また、協議会発足20周年記念誌において歴史街道倶楽部のP Rをおこなう。

#### 3. ボランティアスタッフ会議の開催

会員誌の編集企画、イベント企画、倶楽部運営等につき、年4回ボランティアスタッフ会議を開催する。

#### 4. 他団体との連携によるイベントの実施およびP R

近畿文化会、近鉄文化サロン、奈良まほろば館等、他団体と連携したイベントや相互P Rを実施する。

#### 5. 会員獲得のためのR P・キャンペーンの実施

新規会員獲得キャンペーンを実施するほか、会員継続率アップのための有効期限複数年化について検討する。

---

広報費 24,025 (H22 : △2,006)

## V. 協議会運営

### (活動の方向)

- ・公正でオープンな協議会運営をめざす。
- ・協議会の事業内容を会員団体に更に理解してもらうことおよび適時地域の情報を収集することを目的に会議・勉強会・研修会・講演会・シンポジウムなど各種会合の充実を図る。
- ・歴史街道第七期計画の検討を重ね、これを策定する。

### (事業項目)

#### 1. 会議運営

- (1) 総会・理事会 各1回
- (2) 幹事会 1回
- (3) 運営部会 4回
- (4) 全体会議 4回
- (5) 専門部会・分科会
- (6) 勉強会・現地見学会の実施

会議費 950(H22 : △80)

---

#### 2. 事業推進

I～IVの事業を推進する

会議費 600(H22 : 100)

---

#### 3. 会員維持・増強

協議会パンフ増刷等

会議費 300

---

#### 4. 要望活動

各種の制度改革や整備・保全・景観形成・観光などにかかわる予算の獲得、および地域等で実施する歴史街道関連事業への支援などにつき、国への提案活動をおこなう。

要望活動費 150(H22 : △150)

---

(単位：千円)

## 平成23年度支出

### <会議費>

V-1	会議運営	会議費	950
2	事業推進	会議費	600
3	会員維持・増強	会議費	300
計			1,850

### <要望活動費>

V-4	要望活動	要望活動費	150
計			150

### <広報費>

I-1	メインルートにおける事業の推進	広報費	4,020
2	3つのネットワークにおける事業の推進	広報費	1,440
3	市町村共同事業の実施	広報費	3,680
4	受託事業	広報費	8,000
II-1・2	研修プログラム・教育プログラム	広報費	1,000
III-1	広報PRツールの維持充実	広報費	800
2	関西圏内を対象とする広報事業の展開	広報費	2,170
3	関西圏外を対象とする広報事業の展開	広報費	4,350
4	海外広報	広報費	150
IV	歴史街道倶楽部	広報費	24,025
計			49,635

### 総計

51,635

(H22年度：2,584)

# 平成23年度収支予算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額(a)	前年度予算額(b)	増 減(a-b)
<b>I. 事業活動収支の部</b>			
<b>1. 事業活動収入</b>			
①特定資産運用収入	10,000	20,000	△ 10,000
②会 費 収 入	64,685,000	67,348,000	△ 2,663,000
会費収入	39,500,000	39,013,000	487,000
個人会員会費収入	25,185,000	28,335,000	△ 3,150,000
③事 業 収 入	10,000,000	10,000,000	0
受託事業収入	10,000,000	10,000,000	0
④負 担 金 収 入	24,420,000	21,850,000	2,570,000
広報協力金収入	19,620,000	16,650,000	2,970,000
共同イベント負担金収入	4,800,000	5,200,000	△ 400,000
⑤雑 収 入	2,180,000	2,180,000	0
<b>事業活動収入計</b>	<b>101,295,000</b>	<b>101,398,000</b>	<b>△ 103,000</b>
<b>2. 事業活動支出</b>			
①事 業 費 支 出	75,915,000	73,331,000	2,584,000
会 議 費	1,850,000	2,330,000	△ 480,000
要 望 活 動 費	150,000	300,000	△ 150,000
広 報 費	49,635,000	46,421,000	3,214,000
給 料 手 当	19,280,000	19,280,000	0
福 利 厚 生 費	3,800,000	3,800,000	0
旅 費 交 通 費	1,200,000	1,200,000	0
②管 理 費 支 出	24,799,390	25,099,390	△ 300,000
給 料 手 当	8,200,000	8,200,000	0
福 利 厚 生 費	1,830,000	1,830,000	0
旅 費 交 通 費	900,000	900,000	0
通 信 費	2,200,000	2,200,000	0
消 耗 品 費	5,900,000	5,700,000	200,000
交 際 費	0	0	0
新 聞 図 書 費	0	0	0
賃 借 料	4,129,390	4,129,390	0
水 道 光 熱 費	140,000	140,000	0
租 税 公 課 費	1,000,000	1,500,000	△ 500,000
事 務 雑 費	500,000	500,000	0
<b>事業活動支出計</b>	<b>100,714,390</b>	<b>98,430,390</b>	<b>2,284,000</b>
<b>事業活動収支差額</b>	<b>580,610</b>	<b>2,967,610</b>	<b>△ 2,387,000</b>
<b>II. 投資活動収支の部</b>			
①投資活動支出	3,000,000	3,000,000	0
退職金給付引当資産取得支出	3,000,000	3,000,000	0
<b>投資活動支出計</b>	<b>3,000,000</b>	<b>3,000,000</b>	<b>0</b>
<b>投資活動収支差額</b>	<b>△ 3,000,000</b>	<b>△ 3,000,000</b>	<b>0</b>
<b>III. 予備費支出</b>	<b>44,965,790</b>	<b>49,330,097</b>	<b>△ 4,364,307</b>
<b>当期収支差額</b>	<b>△ 47,385,180</b>	<b>△ 49,362,487</b>	<b>1,977,307</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>47,385,180</b>	<b>49,362,487</b>	<b>△ 1,977,307</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>